

国語科における自分の考えを広げたり、まとめたりする話合いの指導改善 ーファシリテーションの技術を生かした支援を通してー

研究のねらい

令和5年度 前橋特別研修研究員
前橋市立荒子小学校 小林 あつみ

国語科における自分の考えを広げたり、まとめたりする話合いの指導の改善を図るために、ファシリテーションの技術を生かした支援を行うことの有効性について、実践を通して明らかにする。

目指す児童像

友達と話し合う中で、友達の考えのよいところを見付けたり、自分の考えと比較したりしながら、自分の考えを広げたり、まとめたりすることができる児童



手立て ファシリテーションの技術を生かした支援

ファシリテーションとは…交流の場とプロセスを整える、チームマネジメントの六つの技術 ※

技術	本研究におけるねらい	取り入れた場面 (全6時間)
説明	児童が話合いの進め方等を理解できるようにするために、授業を構想する段階で児童にとってイメージしやすく、伝わりやすい言葉を選び、説明を練り上げる。	全時間
問い立て	交流を活性化させるために、児童が自分のこれまでの取組を見直したり、既習の知識や経験を関連付けて考えたりすることを促し、学習課題や発問を工夫する。	【つかむ】 第1時 【追究する】 第2・3時 【まとめる】 第6時
評価・分析	児童のつまずきや進度に合わせて教師が具体的な支援を考え、適切に関わるために、目に見える児童の言動だけではなく、その背景や理由を想像し、分析する。	【追究する】 第4・5時
可視化・可聴化	話し合う内容を焦点化し、考えの比較や情報共有をしやすいようにするために、板書やICT、思考ツールなどを活用して、考えや話合いの流れを見えるようにする。また、振り返りの際に話合いの成果と課題を見付けやすくするために、話合いの音声を録音し、聞き直すことができるようにする。	【つかむ】 第1時 【追究する】 第2～4時 【まとめる】 第6時
隊形	話合いが活性化するようにするために、目的に合ったペア、4人組などのグループを編成する。	【追究する】 第4・5時 【まとめる】 第6時
設計	児童の考えが広がりまとまる話合いにするために、上記五つの技術を使って、単元や単位時間の学習活動を組み立てる。	全時間

※石川晋・ちょんせいこ（2022）
「対話で 学びを深める国語ファシリテーション」

【児童の実態】

- ・「自分の意見だけで進めたい」「話合いに集中できない」など、話合いに対する目的意識が低く、考えを広げたり、まとめたりすることがなかなかできない。
- ・「緊張する」「笑われるかもしれない」など、話し合うことに心理的なハードルを感じ、意見を出すことを躊躇したり、互いの意見を発表するだけに留まってしまったりしている。

【指導上の課題】

- ・何のために話し合うのかという目的を明確にするとともに、教師と児童が目的を共有して活動できるようにする必要がある。
- ・話合いで児童が意見を比較したり、整理したりする方法を工夫する必要がある。
- ・話し合う場面においては、児童の活動状況を見取り、教師が適切に支援をする必要がある。

実践内容

第5学年 話すこと・聞くこと 「よりよい学校生活のために」(全6時間)
第5時 議題「クラスみんなで自分の仕事を忘れずに頑張るにはどうしたらよいか」

手立て ファシリテーションの技術を生かした支援

【評価・分析】

- 話し合いの進み具合に合わせて教師が適切に助言できるようにするために、事前に児童のつまづきとそれに対する教師の対応を想定したシナリオを用意しておき、机間指導の際に活用した。
- 学んだことを生かす意欲を高めるために、活動中に教師が見取った各グループのよかったところを、具体的に全体に伝えた。

質疑応答で止まっています



詳しい説明を聞いてみてはどうでしょう

なるほど。「当番を確認」とは、具体的には…

【可視化】

- 互いの立場を明確にし、意見を比較しやすくするために、ワークシートの座標軸上に、付箋に書いた意見を出し合って整理する活動を取り入れた。

【可聴化】

- まとめる場面において、自分たちの話し合いの音声を聞きながら話し合いの成果と課題を振り返ることができるようにするために、グループごとに話し合いの様子を録音するようにした。

これとこれは似た意見だから隣に貼ろう



どちらも「声をかける」だからね

録音係が録音している様子



【隊形】

- 児童が安心して発言できるようにするために、少人数でグループを編成した。
- 役割を意識し、計画的に話し合うことができるようにするために、一人一つの役割を分担するようにした。

4人グループで話し合う様子



役割分担と進行計画



あるグループにおいて話し合いを経て変容した意見

【個人の意見】「係や委員会の当番の日を伝え合う。」



【グループでまとめた意見】「当番の仕事の時間を決め、遅い人がいたら声を掛ける。それでも遅い人がいたら、目立つところに当番表を貼る。」



児童の振り返りの記述(第5時)

- ・話し合いの中で、先生に司会の進め方についてヒントをもらってうまく進められた。

【評価・分析】

- ・付箋に整理して、意見を比べて、しっかり共通点や違うところを見付けられたおかげで、最後はうまく意見をまとめられた。

【可視化・可聴化】

- ・〇〇さんが□□さんの意見に質問をしてくれたから、班のみんなでもよりよい意見をまとめられた。

【隊形】



実践後のアンケート

「本単元の学習を終えて、話し合いの技術がどのくらい向上したか？」という質問に対して、10点満点中6点以上を付けた児童が全体の75%だった。また、アンケートの記述からも、児童が話し合いで意見を比較することによって、考えを広げたり、まとめたりすることができたことがうかがえた。

＜児童の記述＞

- ・班の中で出た意見をつなげてさらによい意見にすることができた。
- ・前は理由やリアクションなどが言えなかったけれど、少し意見を言うのが得意になった。
- ・グループのみんながしっかり意見を言えるようになったし、共通点などを探すとき、ワークシートを使って、みんなで「これとこれは同じだね」と相談して意見を整理することができた。

成果と課題

- ファシリテーションの技術を生かして教師が支援することで、話し合いの目的や方法を児童が明確に意識するようになり、互いの考えのよいところを見付けたり、比較して考えたりすることができた。
- 立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合ったことにより、意見発表に留まらず、友達のと考えと比較することを通して、考えを広げたり、まとめたりすることができた。
- ◇国語科の他の領域や他の教科の話し合いでもファシリテーションの技術を生かし、その有効性を検証していきたい。
- ◇話し合いの指導の改善は一度の授業で成し遂げられるものではないので、児童が話し合いの経験を重ね、話し合うことの楽しさや達成感を味わえるよう、今後も指導を継続していきたい。